

論文審査の要旨

報告番号	甲・乙 第 3175 号	氏名	蒲澤 宣幸
論文審査担当者	主査 本田 一穂 教授 副査 坂下 暁子 教授 副査 根本 哲生 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本論文は、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (DLBCL, NOS) と、免疫不全を背景として発症し同一の組織学的所見をとる DLBCL 型医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患 (DLBCL type LPD) を MYC の蛋白発現や遺伝子転座を中心として病理組織学的に比較, 検討した論文である。</p> <p>DLBCL type LPD 13 例と DLBCL, NOS 30 例を病理組織学的に比較検討した。両群は組織学的サブタイプや EB ウイルス感染で有意に差を認めた。特に MYC の遺伝子転座は DLBCL type LPD 患者では 0%であったのに対し, DLBCL, NOS 患者では 13% の患者で陽性であり有意に差を認めた。</p> <p>ほとんどの症例で化学療法が必要とされる DLBCL, NOS と, 免疫抑制剤の休薬のみで縮小する症例も多数ある DLBCL type LPD の病理組織学的違いを見極めることは臨床上重要である。</p> <p>両群には MYC の遺伝子転座を中心に明らかな違いがみられ, これらの要因により, 治療反応や臨床経過などの臨床的な違いが生じる可能性がある事が推察された。本報告が新しい知見を得ており, 学術上の価値があるものと判定した。</p> <p>論文題名 : MYC expression and translocation in DLBCL-type iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorder [DLBCL 型医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患における MYC の発現と転座]</p> <p>掲載雑誌名 : Journal of Clinical and Experimental Hematopathology 2020 年 掲載予定</p>			

(主査が記載, 500 字以内)